

2022年7月17日（日）「救いの道筋」

ローマ3:21-24

21 しかし今や、神の義が、律法とは別に、しかも律法と預言者によってあかしされて、現された。22 それは、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、すべて信じる人に与えられるものである。そこにはなんらの差別もない。23 すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、24 彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。

ハイデルベルク信仰問答より

問2 あなたが、この慰めという祝福の中に生きかつ死ぬことができるために、あなたはどれだけのことを知らねばならないのですか。

答え 三つのことであります(テトス3:3-8)。第一には、私の罪と悲慘がいかに大きいかということ(ヨハネ9:41)。第二には、私が、どのようにして、すべての罪とその悲慘な結果から自由にされたかということ(ヨハネ17:1-3)。第三には、この救いに対して、私はどのような感謝を神に捧げるべきか(1ペテロ2:9-10)ということであります。

本年度2回目の講壇交換をここに実施することができまして、心から感謝しております。世界が大きく揺り動かされている中にありますが、このような時代だからこそ、私たちは動かされることのない真理を自分の内にしっかりと持ってはなりません。私たちは一生の間に、技術や知識といった様々な「無形資産」を持つことができますが、その中でも最大の価値を持つものとはやはり信仰・希望・愛だと考えています。これは誰にも奪うことのできないもの、お金では買えないもの、永遠の価値を持つものです。私自身、これから世界がどのように移り変わって行くか、不安に押し潰されそうになることもあります。だからこそ信仰の基礎を確認し続けなくてはならないと切に感じております。

今日はハイデルベルク信仰問答の問2を扱います。この講壇交換の場をお借りして、本問答書から語っていきたいと考えてきました。「教理」という少々お堅い内容をできる限り分かりやすくお伝えすることができればと思っています。

さて、問2を理解するためには、どうしても問1を振り返らなくてはならないのですが、昨年9月に語っていた内容を覚えていらっしゃるでしょうか。問1では「あなたにとっての唯一の慰めとは何ですか」という問いが投げかけられていました。「慰め」という言葉自体

に説明が必要であったと思います。「慰め」とは「私たちがどんなときにも依って立つもの」「この人生で一番大切なもの」であり、キリスト者にとってそれは「救い主イエス・キリストである」という答えになります。キリスト者とは、自分を永遠に愛し支えてくださるキリストのために生きそして死ぬ者たちである。かつては自分の命を守ることばかりで、自分を中心に生きていた私たちが、そういう利己的な生き方から解放され、キリストに献身する者となった。そんなお話をさせていただきました。

問2においては更に話が深まり、「**あなたが、この慰めという祝福の中に生きかつ死ぬことができるために、あなたはどれだけのことを知らねばならないのですか**」という問いに進んでいきます。言い換えるならば、キリストのために生きるうえで私たちがいつも覚えていなくてはならないことは何かということです。キリスト者が忘れてはならないこと、信仰の基礎として心に据えておかななくてはならない原則です。その答えとして3つの内容が呈示されています。

- ①人間の罪と悲惨
- ②罪と悲惨からの解放
- ③解放されたことへの感謝

まず、「**知らねばならない**」と言われています。「知る」とは、第一に「これまで知らなかったことを新しい知識として受け取る」ということ。何かを信じるためには、「誰かから聞く」あるいは「何かで読む」必要があります。何らかの形で福音が伝達されなくてはなりません。そして、ここで言われている「知る」とは、ただ知識として持つておくということではなく、「神を人格的に知る」ことを意味します。

ジュネーヴ教会信仰問答

問6 では、神についての真の正しい知識は何ですか。

答え 神をあがめる目的で神を知るときであります。

「知る」ということの第二の側面は、「すでに知っている事柄の再確認」であります。長く信仰生活を続けてこられた方にとっては、もう何度も聞いてきたことかもしれません。しかし、その「同じことば」は一度聞いて完結するものではなく、繰り返し聞くことによってより深く心に刻まれ、その時々によって聞き方も変わってくるものとなる。信仰の知識は更新されるのです。

ハイデルベルク信仰問答が示す信仰の基礎となる3つの知識は、簡潔かつ適確に福音全体を要約しています。中心にくる「救い」は、それだけでは意味をなさず、何から救われるのかが示されなくてはなりません。それが「罪」であり、罪の結果としての「悲惨」です。①と②は分離できず、相互補完的な関係にあります。私たち人間がどういう状態にあるのかがまずはっきりと示されなくてはならない。創世記はなぜ天地創造の時の一糸乱れぬ世界の秩序をもって語り始めるのでしょうか。それは、この世界には「本来あるべき状態」が存在することを示すためです。そして、その状態から遠く離れた世界がここに広がっていることを読者に認識させるためです。

罪とは「神からの離反」であり、神を神としないならば、人は自分を神とするようになる。このことをよく言い表した言葉が「無神論」「自己神論」でしょう。神への恐れなしに生きるとき、人は自らを基準とする錯誤に陥るのです。しかし、私たち自身が知っているように、自分が定める基準というのは不確かであって、欲望や相対的な価値観によっていくらかでも軸がぶれてしまいます。そして、人が各々に基準を作り出すと、基準と基準がぶつかり合う結果に至るでしょう。

人間が「神の基準」を知らずに生きる弊害が、ここで言われている「悲惨」という状態です。世界が人間の欲望を中心に形成されていく。神は愛であり、神が創造された世界が本来「愛」によって形成されていくご計画であったとするならば、神から離れた人間世界には当然「悲惨」がもたらされることになるでしょう。

現在、世界はパワーバランスが崩れた状態にあります。誰かの利権のために戦争が誘発され、これまで各国が相互に依存し合っていた天然資源や食糧の輸出入がストップされる事態に陥っています。その結果、極度にインフレが加速し、エネルギー危機、食糧危機が庶民の生活に襲いかかってきています。この日本ももちろん例外ではありません。これから先、一体どういう世界になっていくのでしょうか。国家が下す決断を国民は止めることができないのです。もしこの世界が、当初の目的の通り「愛」によって形成されていたとするならば、核兵器による抑止力の行使、収奪を目的とした戦争やビジネス、食糧やマネーの独占、経済制裁、輸出入の停止といった悪循環の泥沼に陥ってはいなかったことでしょう。神が人間を造られた目的は、互いに愛し合うことであり、愛に基づいて地を管理させることでした。しかし、それとはあまりにかけ離れた世界が広がっているのを目の当たりにしています。そして、私たちも知らず知らずのうちに、便利になりすぎた世の中で、罪に加担している者の一人になっていると言えないでしょうか。

このような世界に救い主が送られたのです。この方は、神の愛が世に現れるために派遣されました。罪に支配された世に神の支配が突入した。それが、イエス・キリストの誕生

という出来事でした。この方は私たちに、罪とは何であるかを認識させ、その罪から贖われるための道を切り拓いてくださいました。十字架によって憎しみの連鎖を断ち切り、信じる者の内に宿り、神の愛に生きる人生へとパラダイムシフトしてくださったのです。その恵みを受けたのがキリスト者であります。

問2の第3の答えは、救いにあずかった人間に与えられていく新しい人生について教えています。「この救いに対して、私はどのような感謝を神に捧げるべきか」。これは、罪の縄目から解放された人が、自由に自由を増し加えられていくことを経験する感謝について語っています。言い方を変えるならば、キリストの弟子として生きる喜びに満ちた人生が開かれるということです。

今、私たちの生き方そのものが問われていると言えないでしょうか。円安が極端に加速するいま、私たちが大事にしてきた「お金」というものの価値がみるみるうちに低下していくのを目の当たりにしています。第二次世界大戦後に起きたのとよく似た状況が、私たちの身に降りかかっているのかもしれませんが。だからこそ、私たちは今、真に価値のあるものとは何であるかを、もう一度自分の心に問いかけてみるべきではないでしょうか。決して失われないものがあります。それは、信仰、希望、愛です。このすべてを与えてくださったのが私たちの主イエス・キリストであります。私たちを永遠に神のものとしてくださった。生きるにしても死ぬにしても、私たちは主のものなのです。

今日はハイデルベルク信仰問答の問2から語らせていただきました。「悲惨・救い・感謝」この順序を常に心に留めておきたい。罪の認識なき救いは存在せず、救いなき感謝も存在しないからです。罪の認識なく救いばかりが強調されるならば、実体のない喜びとなるでしょう。救いなき（感謝の）業は律法となって再び私たちを苦しめることになるでしょう。私たちの信仰生活のどこかがバランスを欠いているとするならば、この順序が入れ替わってしまっているか、どれかが忘れられているからかもしれません。この原則を心に留めて歩んでいきたいと思えます。

## 【祈り】

慰め主なる神よ。今、真に価値あるものが何であるかが、一人びとりに問われています。今まで大切にしてきた価値観が崩されつつある世の中です。そのような世界に生きる私たちですが、この心に永遠に朽ちることのないものを持っています。それは、まことの慰めであるイエス・キリストです。この方が与えてくださった信仰・希望・愛を永遠に握りしめていることができるよう、お助けください。

## 【祝祷】

仰ぎ願わくは、  
神なき人生を歩む者に、その悲惨なる現実を示し給う、父なる神の愛、  
己が罪を知れる者に、直ちに救いをもたらし給う、主イエス・キリストの恵み、  
救いを受けし者を感謝で満たし、この地に慰めを与える器となし給う、聖霊の親しき交わりが、  
あなたがた一同の上に、限りなくあらんことを。